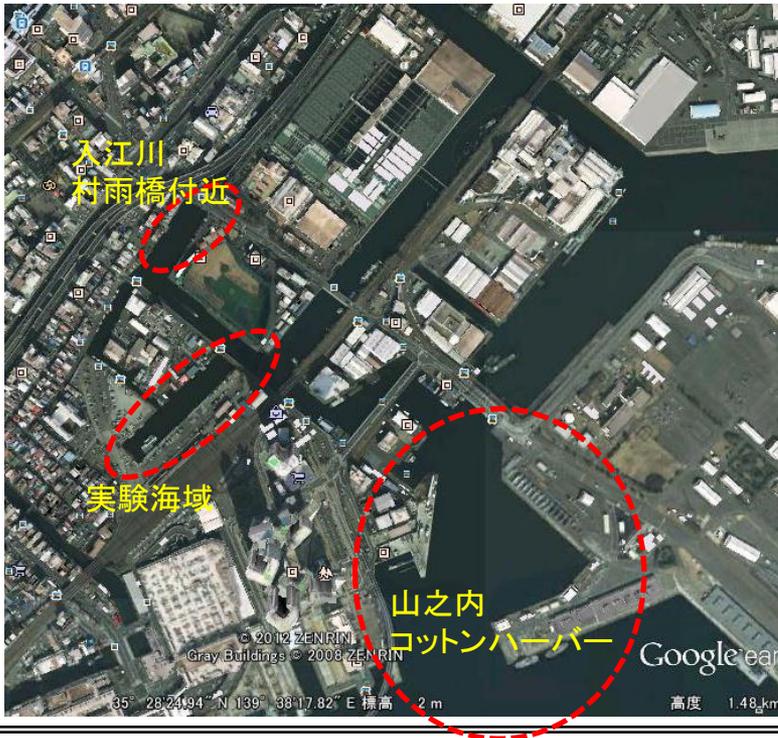


水質調査結果:

採水場所3箇所での大きな差は見られない。

横浜で一番汚染されていた実験海域と入江川は外海に近いコットンハーバと同等まで浄化が進んでいることが証明された。

横浜市環境創造局 環境科学研究所による効果確認のため水質調査を行なった。
採水場所: 実験船周辺③、入江川(村雨橋付近)④、山之内(コットンハーバ)⑤



入江川浄化船 採水試験結果

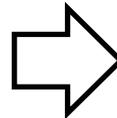
検体名	①実験船取水 (処理前の水)	②実験船放流水	③実験船周辺 の海水	④入江川 (村雨橋付近)	⑤山之内 (コットンハーバ)
採水時刻	10:55	10:48	11:05	11:20	11:35
水温 (°C)	26.2	25.0	26.1	26.2	27.1
pH	7.59	6.89	7.13	7.22	7.77
塩分濃度 (‰)	30	30	14	13	20
DO (mg/L)	-	3.88	2.65	3.26	4.69
SS (mg/L)	6900	71	ND*	ND*	ND*
COD (mg/L)	850	16	4.2	5.2	4.4
クロロフィルa (μg/L)	-	16	0.6	2.8	7.1

* ND: 2mg/l以下

採水日: 平成23年8月24日(水)
分析: 横浜市環境創造局 環境科学研究所

実証試験海域の海底から採取しているヘドロの油汚染状態の検査と浄化プラントの油汚染浄化力を調査した。

取水時：軽油炭素範囲(C₁₂~C₂₈) 140mg/l
残油炭素範囲(C₂₈~C₄₄) 150mg/l



処理後：軽油炭素範囲(C₁₂~C₂₈) 10mg/l未満
残油炭素範囲(C₂₈~C₄₄) 10mg/l未満

件名 海水の分析(途中経過)

区分	水質	試料採取者	特定非営利活動法人 Earth Blue
試料名	海水	受取日	平成24年3月22日

試験の対象、結果及び方法

試験の対象	試験の結果	試験の方法
TPH (mg/l)	290	油汚染対策ガイドライン(平成18年3月) GC-FID法によるTPH試験方法
(参考値)		
ガソリン炭素範囲(C ₆ ~C ₁₂) (mg/l)	10未満	
軽油炭素範囲(C ₁₂ ~C ₂₈) (mg/l)	140	
残油炭素範囲(C ₂₈ ~C ₄₄) (mg/l)	150	
以下余白		

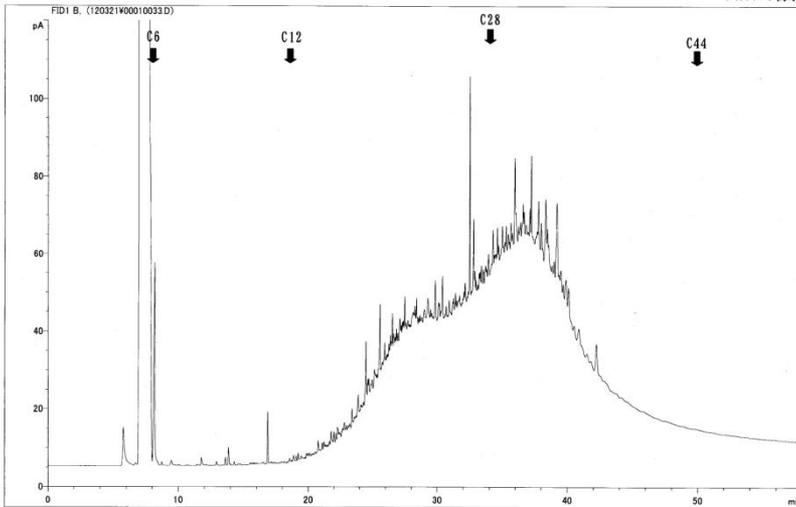
件名 T4槽の培養液の分析(途中経過)

区分	水質	試料採取者	特定非営利活動法人 Earth Blue
試料名	T4槽の培養液	受取日	平成24年3月22日

試験の対象、結果及び方法

試験の対象	試験の結果	試験の方法
TPH (mg/l)	10未満	油汚染対策ガイドライン(平成18年3月) GC-FID法によるTPH試験方法
(参考値)		
ガソリン炭素範囲(C ₆ ~C ₁₂) (mg/l)	10未満	
軽油炭素範囲(C ₁₂ ~C ₂₈) (mg/l)	10未満	
残油炭素範囲(C ₂₈ ~C ₄₄) (mg/l)	10未満	
以下余白		

試料名：海水



試料名：T4槽の培養液

